

## 平成28年度 学校関係者評価結果

1. 実施日：平成29年6月28日（水） 16：00～18：00
2. 場 所：九州医療スポーツ専門学校 201教室
3. 学校関係者評価委員
  - 堀内担志（九州共立大学特別客員教授）
  - 久保英二（福岡県立北九州高等学校校長）
  - 大森弘太郎（九州医療スポーツ専門学校同窓会会長）

### 基準1 教育理念・目的・育成人材像等

| 評価平均 | 意 見   | 自己評価 |
|------|---|------|
| 5.0  | 全ての項目で、実績が上がっていると感じられる。また、全職員が一丸となって「士魂医才」を校訓とし、人材育成に取り組んでいる。「ZERO100」プロジェクトや教育理念、目的、人材像が定められている。また、学生と教職員、地域との連携が取れている。健康な社会の創造に、十分寄与できるものと思料する。 | 4.0  |

### 基準2 学校運営

| 評価平均 | 意 見  | 自己評価 |
|------|--|------|
| 5.0  | 会議等でもきちんと計画が立てられ、経営方針、事業計画、運営組織や思考決定機能等、円滑なマネジメントが行われている。ITシステムも構築化され、健全な学校運営が進められている。 | 3.8  |

### 基準3 教育活動

| 評価平均 | 意 見   | 自己評価 |
|------|---|------|
| 3.7  | ビジョンでもある「ZERO100」プロジェクトを実現するために、様々な教育環境と教育者を整えている。各学科の教育目標を、教員及び学生が、共に理解を深めて進化することを期待するものである。 | 3.3  |

基準 4 教育成果

| 評価平均 | 意見   | 自己評価 |
|------|--|------|
| 3.7  | 各学科により成果の違いこそはやむを得ないが、卒業生の中からプロのトレーナーを輩出するなどの成果も見受けられる。今後は、学生の将来を見据えたきめ細かい教育指導を行い、医療業界の構成員としての理解を深めさせる必要がある。 | 2.7  |

基準 5 学生支援

| 評価平均 | 意見   | 自己評価 |
|------|--|------|
| 3.7  | 各学科教員によって、学生に対するサポート体制が整っている。また、教務部や学生部などでも学生の立場になったサポートが行われている。学生相談の体制については、外部のカウンセリングはもちろん、気軽に相談できるためのスペースの確保や、目の前の教員が親身になることも必要である。 | 3.1  |

基準 6 教育環境

| 評価平均 | 意見   | 自己評価 |
|------|--|------|
| 5.0  | 環境改善は常に進んでおり、新校舎になって環境も整ってきたと思う。学外実習については、学生たちがこれから社会に出て働くという心構えを心身共に体験できる機会としていて良い。また、海外研修も、学生に国際的視野を広げる為にも大変良い機会であることから、体制を進めていくことを期待する。 | 3.7  |

基準 7 学生の募集と受け入れ

| 評価平均 | 意見  |     |
|------|---|-----|
| 4.3  | 学科も増え、募集数も増えている中で、広報部をはじめグループ全体で募集に力を入れている。当専門学校のポリシーを明確に理解して、有能な学生であったり、医療界で活躍するための人材になるためにはどのようにすれば良いのかという課題意識を明確にした者が、入学できるよう体制を整える。また、学生獲得の競争が激しくなる中で、学校の個性化が必要ではないかを感じる。 | 4.5 |

基準 8 財務

| 評価平均 | 意見  |     |
|------|---|-----|
| 5.0  | 安定した経営ができています。中長期経営計画を策定し、財政基盤の安定が図られている。 | 3.5 |

基準 9 法令等の遵守

| 評価平均 | 意見   |     |
|------|--|-----|
| 5.0  | 十分に健全な運用がなされており、貴学が更なる発展を遂げるためにも、社会的信頼度をさらに高めていくべきである。 | 4.3 |

基準 10 社会貢献

| 評価平均 | 意見   |     |
|------|--|-----|
| 5.0  | 地元北九州市と連携協定を締結し、協力を図ることは極めて重要なことである。地域活動やボランティアなど、学校全体として率先していることから、市民一人ひとりに対して還元していることがうかがえる。 | 4.0 |

● 総 括

当校は、設置された理念に基づき、学校運営、学生教育がなされており、財務、法令等の遵守事項、社会貢献等、その健全な運営は概ね良好であると評価できる。

また、当校は医療専門職に就く有能な人材を育成していかなければならないことから、現在、国民の健康の大きな問題となっている、少子高齢化にどのように対応すれば良いか、公衆衛生学教育の充実も大きな問題であろう。医療専門職は単に、今、目の前にいる人だけを対象とするのではなく、より広い視野を持って健康福祉社会の充実（健康な社会の創造）に向けた教育、研究等の実践活動を期待したい。

平成29年6月28日

九州医療スポーツ専門学校 学校関係者評価委員会